

# 事務事業評価シート(1/2)

1頁  
令和 3年 8月17日  
13時55分52秒

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2次評価  
所属 0001231510 子ども発達支援課施設管理係  
事務事業 02996 子ども発達支援センター施設管理事業

所属長名 加藤典子  
担当者 古居英剛  
電話番号 77-7795

## 【基本情報】

計画回数	02	第8次安城市総合計画		
5Kの分類	005	こども		
項目(施策)	001	17子育て		
施策の方針	006	子ども発達支援センター		
事務事業	007	子ども発達支援センター施設管理事業		
事業期間	平成30年度～			
実施方法	直営			
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目
健全事業		マニフェスト		地方創生 結婚・出産・子育て
根拠法令等	安城市子ども発達支援センターの設置及び管理に関する条例			
備考				

## 【事業分析】

対象	施設利用者が
目的	気軽に安心して施設を利用することができるようにします。
手段	施設利用者が快適に過ごすことができるように、施設の適切な管理運営を行います。
事務内容	施設の適正管理、建物・備品等の修繕、図書業務等

## 【コスト】

(単位:千円)

	平成31年度 決算額	令和 2年度 決算額	令和 3年度 予算額
トータルコスト	79,611	53,303	57,785
事業費	68,271	41,963	45,905
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	0	0
一般財源	68,271	41,963	45,905
人件費計	11,340	11,340	11,880
正規(人)	1.80	1.80	1.80
その他経費	0	0	0

	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
【事務事業活動実績】	子ども発達支援センターの管理・運営(施設の適正管理、設備修繕等)、施設内イベント・会議の企画、視察対応、図書業務	子ども発達支援センターの管理・運営(施設の適正管理、設備修繕等)、施設内イベント・会議の企画、視察対応、図書業務	子ども発達支援センターの管理・運営(施設の適正管理、設備修繕等)、施設内イベント・会議の企画、視察対応、図書業務

# 事務事業評価シート ( 2 / 2 )

2 頁  
令和 3 年 8 月 17 日  
13 時 55 分 52 秒

評価年度 令和 2 年度 進捗区分 2 次評価  
所属 0001231510 子ども発達支援課施設管理係  
事務事業 02996 子ども発達支援センター施設管理事業

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
修繕実施件数	件	20.00 10.00	20.00 15.00	20.00 0.00
施設管理に係るクレーム(意見等含む)件数	件	10.00 0.00	10.00 0.00	10.00 0.00

## 【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	市の施設であり管理を行う必要があります。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	市民に安心安全に利用してもらうため施設の適切な管理が必要です		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	支障無く施設の管理を行うことができています。		
4	効率性 事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	事業点検の上経費削減を図るなど効率的な運営に努めています。		
5	公平性 事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	施設規模に応じた適切な管理を行っています。		

## 【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	コロナ禍の影響でイベントの中止や事業内容の変更・縮小を余儀なくされましたが、館内の定期的な消毒、飛沫防止対策などコロナ対策を徹底することで利用者が安心して施設を利用できるように努めました。また、災害時サルビア学園で応急療育を行うことができるように非常用発電設備を導入しました。

## 【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

# 事務事業評価シート ( 1 / 2 )

1 頁  
令和 3 年 8 月 17 日  
13 時 57 分 08 秒

評価年度 令和 2 年度 進捗区分 2 次評価  
所属 0001231520 子ども発達支援課相談支援係  
事務事業 02997 子ども発達相談支援事業

所属長名 加藤典子  
担当者 岡田賀子  
電話番号 0566-77-7796

## 【基本情報】

計画回数	02	第 8 次安城市総合計画			
5 K の分類	005	こども			
項目 ( 施策 )	001	1 7 子育て			
施策の方針	006	子ども発達支援センター			
事務事業	008	子ども発達相談支援事業			
事業期間	平成30年度 ~				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	義務的 / 政策的	性質別費目	
健全事業		マニフェスト		地方創生	結婚・出産・子育て
根拠法令等	母子保健法・児童福祉法・障害者総合支援法・学校保健法・学校教育法				
備考					

## 【事業分析】

対象	発達に心配や遅れのある18歳までの子ども、その保護者並びに関係する各機関
目的	心身に障害のある子ども又はその疑いのある子ども及び保護者の福祉の増進を図ります。
手段	専門職による面接相談、電話相談、保育園・幼稚園へ出向いての訪問相談、集団指導、保護者支援、グループ支援
事務内容	発達相談、就学相談、訪問相談、障害児 ( 特定 ) 相談支援事業、1歳6か月児健診事後指導会 ( 親子教室 )、ペアレント・プログラム教室、ソーシャルスキルトレーニング教室の実施継続

## 【コスト】

( 単位 : 千円 )

	平成31年度 決算額	令和 2 年度 決算額	令和 3 年度 予算額
トータルコスト	139,563	154,039	167,063
事業費	57,663	65,839	74,663
国庫支出金	1,344	945	1,150
県支出金	672	516	575
地方債	0	0	0
その他	17,425	18,790	25,000
一般財源	38,222	45,588	47,938
人件費計	81,900	88,200	92,400
正規 ( 人 )	13.00	14.00	14.00
その他経費	0	0	0

	平成31年度	令和 2 年度	令和 3 年度
【事務事業活動実績】	発達相談3,240件、就学相談714回、訪問相談110回、障害児 ( 特定 ) 相談支援事業4,416件、1歳6か月事後指導会43回、ペアレント・プログラム10名、S S T 教室6組	発達相談3,587件、就学相談749回、訪問相談104回、障害児 ( 特定 ) 相談支援事業4,365件、1歳6か月事後指導会39回、ペアレント・プログラム11名、S S T 教室5組	発達相談、就学相談訪問相談、障害児 ( 特定 ) 相談支援事業、1歳6か月事後指導会、ペアレント・プログラム教室、S S T 教室

# 事務事業評価シート ( 2 / 2 )

評価年度 令和 2 年度 進捗区分 2 次評価  
所属 0001231520 子ども発達支援課相談支援係  
事務事業 02997 子ども発達相談支援事業

【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和 2 年度	令和 3 年度
教室内容の満足度	%	90.00	90.00	90.00
		88.30	100.00	0.00
教室参加後変化ありの割合	%	80.00	80.00	80.00
		83.00	75.00	0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	2
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	継続的に実施していきます。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	市民ニーズは充分にあります。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	目標に対し、順調に進んでいます。		
4	効率性 事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	事業手法の検討や事務改善に取り組んでいます。		
5	公平性 事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	環境変化に応じた事業を実施しています。		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	ペアレント・プログラム教室は、幼保育園年代保護者を対象に1教室及び、小学生保護者を対象に2教室開催します。昨年度、参加した保護者の満足度は高く、継続して教室を開催していきます。支援者養成のために、福祉サービス事業所にも周知し、支援者研修会として参加者を募集していきます。 ソーシャルスキルトレーニング教室は、低学年の親子を対象に募集し、就学相談担当の心理士が講師となり開催します。次年度継続して開催できるように安城市版マニュアルを作成します。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

# 事務事業評価シート ( 1 / 2 )

1 頁  
令和 3年 8月17日  
13時59分03秒

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2次評価  
所属 0001231530 子ども発達支援課療育係  
事務事業 02481 やまびこルーム事業

所属長名 加藤典子  
担当者 中根百合子  
電話番号 0566-77-7912

## 【基本情報】

計画回数	02	第8次安城市総合計画		
5Kの分類	005	こども		
項目(施策)	001	17子育て		
施策の方針	006	子ども発達支援センター		
事務事業	003	やまびこルーム事業		
事業期間	平成 3年度 ~			
実施方法	直営			
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目
健全事業		マニフェスト		地方創生
根拠法令等	児童福祉法、知的障害者福祉法			
備考				

## 【事業分析】

対象	子どもの心身の発達に不安のある親とその子どもが、
目的	適切な援助・指導を受けられます。
手段	子どもの心身の発達に不安のある親とその子どもが、地域の中で安心して生活するための相談や療育支援をします。
事務内容	親子グループ指導(1~3歳程度の乳幼児、0~5歳の未歩行児及び重症心身障害児)、就園後の療育支援、行事(父親参観、保護者向け研修会など)

## 【コスト】

(単位:千円)

	平成31年度 決算額	令和 2年度 決算額	令和 3年度 予算額
トータルコスト	42,383	43,812	55,115
事業費	17,183	18,612	28,715
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	0	0
一般財源	17,183	18,612	28,715
人件費計	25,200	25,200	26,400
正規(人)	4.00	4.00	4.00
その他経費	0	0	0

	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
【事務事業活動実績】	集団療育・親子遊びの 実施回数 679回 専門相談(発達・言語 相談 計99回)	集団療育・親子遊びの 実施回数 541回 専門相談(発達・言語 相談 計80回)	集団療育・親子遊びを 実施します。

# 事務事業評価シート ( 2 / 2 )

評価年度 令和 2 年度 進捗区分 2 次評価  
所属 0001231530 子ども発達支援課療育係  
事務事業 02481 やまびこルーム事業

## 【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和 2 年度	令和 3 年度
療育訓練参加者数	人	200.00 190.00	200.00 122.00	200.00 0.00
療育訓練参加者数 / 療育訓練希望者数	%	100.00 100.00	100.00 100.00	100.00 0.00
療育内容に対する満足度	%	80.00 93.75	80.00 100.00	80.00 0.00

## 【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	早期療育が必要なため市で実施しています。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	早期療育が必要な子どもは一定数存在します。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	療育相談・支援を希望される方には全て応じています。		
4	効率性 事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	参加人数に応じてクラス編成し、効率的に実施しています。		
5	公平性 事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	必要な療育相談・支援を実施しています。		

## 【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	発達に何らかの偏りや心配のある子どもが、親子で基本的な生活習慣や社会性の基礎を身につけていけるよう集団療育や親子遊びを行っています。療育支援を必要とする子どもの保護者の就園への不安を軽減するため、関係機関と連携して就園の説明や相談を行いました。今後は下児を連れての参加に困難を感じている保護者に対して託児を実施し、負担軽減に取り組みます。

## 【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

# 事務事業評価シート（1/2）

1頁  
令和 3年 8月17日  
14時00分29秒

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2次評価  
所属 0001231540 子ども発達支援課通所係  
事務事業 02480 サルビア学園事業

所属長名 加藤典子  
担当者 中谷則子  
電話番号 0566-77-7797

## 【基本情報】

計画回数	02	第8次安城市総合計画		
5Kの分類	005	こども		
項目（施策）	001	17子育て		
施策の方針	006	子ども発達支援センター		
事務事業	002	サルビア学園事業		
事業期間	昭和50年度～			
実施方法	直営			
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目
健全事業		マニフェスト		地方創生
根拠法令等	児童福祉法、安城市立サルビア学園の設置及び管理に関する条例			
備考				

## 【事業分析】

対象	知的障害のある幼児の
目的	社会生活への適応能力を養う。
手段	【児童発達支援事業】知的障害のある幼児を日々保護者のもとから通園させ、日常生活に必要な基本的事柄を身につけられるよう療育支援します。 【保育所等訪問支援事業】保護者からの依頼により保育所等の施設を訪問し、本人と施設スタッフに必要な専門的助言を行い、児が集団生活に適應できるよう支援します。
事務内容	園児（知的障害等のある概ね3歳から就学前までの幼児）の日々の療育、入園児童の受付・決定事務、遠足・運動会・クリスマス会などの親子行事、保育所等への訪問支援など。

## 【コスト】

（単位：千円）

	平成31年度 決算額	令和 2年度 決算額	令和 3年度 予算額
トータルコスト	127,059	125,367	135,287
事業費	51,459	43,467	49,487
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	380	0
地方債	0	0	0
その他	51,459	43,087	49,487
一般財源	0	0	0
人件費計	75,600	81,900	85,800
正規（人）	12.00	13.00	13.00
その他経費	0	0	0

	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
【事務事業活動実績】	4月51人（新入17人） 途中入園 4人 年間実人数 55人 移行・卒園児 21人  保育所等訪問支援 3件	4月56人（新入22人） 途中入園 3人 年間実人数 59人 移行・卒園児 30人  保育所等訪問支援 1件	4月51人（新入22人）

# 事務事業評価シート ( 2 / 2 )

2 頁  
令和 3 年 8 月 17 日  
14 時 00 分 29 秒

評価年度 令和 2 年度 進捗区分 2 次評価  
所属 0001231540 子ども発達支援課通所係  
事務事業 02480 サルビア学園事業

## 【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
サルビア学園入所児童数	人	50.00	50.00	50.00
		51.25	54.25	0.00
サルビア学園待機児童数	人	0.00	0.00	0.00
		0.00	0.00	0.00
訪問支援サービス利用契約数	件	3.00	3.00	3.00
		3.00	1.00	0.00

## 【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	2
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	実情に即した適切な支援を実施する必要があります。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	支援の必要な子どもは一定数存在します。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	支援の必要な子どもを受け入れています。		
4	効率性 事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	事業点検の上経費削減を図るなど効率的な運営に努めています。		
5	公平性 事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	法令に基づいて実施しています。		

## 【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	入所を希望する児童の増加に対応するため、継続して定員を超える児童の受入れ支援を行いました。保育所等訪問支援事業は、1件の申込に対し延べ6回の訪問支援を行いました。今後も実践と検証を重ねて円滑な事業運営を継続していきます。

## 【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。